

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	唐津市立平原小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・唐津市学力向上指定校として昨年度発表した。引き続き学力向上を目指すとともに、家庭とも連携しながら新しい方法を模索し課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。 ・キャリア教育の理解・充実に向けて、教育課程内でできることを明らかにして児童のキャリアアップを支えていく。 ・心の教育では、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を柱として、学校が組織的・具体的に対応できるようにしていく。さらに、学校の特徴を活かしながら、児童の自己肯定感が高まるような機会を多くつくっていく。挨拶のさらなる推進と言葉遣いの指導を行っている。 ・保護者、地域連携では、家庭学習の充実、「進んで挨拶する」「自分の考えを伝える」「言葉を大切にする」という基本的な生活習慣の確立に向けて、生活習慣点検週間を設けるなど、保護者にも周知を図りながら全校的な取組を今後も積極的に実施していく。また、学校に定着した「ひまわり」「メダカ池、ホタル川」の充実を図り、情報を発信していきたい。 ・健康・体力づくりについては、外で元氣よく遊ぶことの奨励とともに社会体育での頑張りについても学校で積極的に紹介していくなど、継続して連携を図っていく。
------------------	--

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く平原っ子の育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	1 思いやりの心をもち、ふるさとを愛し、自らの夢を育む子どもの育成 2 小規模学級・学校の強みを活かした学力向上への取組（自力解決力と振り返る力の育成） 3 職員の協働意識と学校運営への参画意識を高める「チーム平原」の強化（共通理解と共通実践） 4 保護者・地域・外部の人材とのさらなる連携強化
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価					主な担当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師80%以上	・小中9年間を通して主体的に学び続ける児童の育成に関する取組組みについて、浜五校区で情報交換を行い、自己実践の改善を継続して行う。 ・ラーニングマウンテンを作成、実施し、良かった点や改善する点を共有する。	B	学力向上対策評価シートに示した成果指標に対し、全職員が肯定的な回答をした。 ・夏季休業中に学力向上に関する研修を実施し、ラーニングマウンテンの取組組みについて情報交換や改善点等についての話し合いを行うことができた。	A	・学力向上対策シートに示した成果指標はすべて達成することができた。 ・ラーニングマウンテンの取組や振り返りシートなどの取組について情報交換や改善点などについて話し合うことができた。	A	・先生方がしっかりと取り組んでいる。今後とも児童の実態を見極めつつ、指導してほしい。 ・英語教育も、早いうちから慣れたいと耳から入ってきてほしいと聞いた。どんどんやってほしい。	学力向上担当 研究主任	
	○単元終末の活動を見据えた計画と児童との共有 ○児童の思考を促す交流活動の工夫 ○タブレット利活用の促進	○ラーニングマウンテンを複数回実施した教師80%以上 ○意欲的に勉強しているとの児童の肯定的な回答80%以上 ○交流活動に対する児童の肯定的な回答80%以上 ○タブレットを用いた表現活動を複数回実施した教師80%以上 ○児童の意識調査で、タブレットの技能が向上したと感じるとの回答80%以上	・ラーニングマウンテンを用いて、単元のゴールを工夫する。 ・行事等の振り返り活動では、発表するだけに終わらず、「交流」活動を行う。 ・児童に係るタブレットの技能向上を図るため、タイピング選手権を行い表彰する。また、パワーポイントなどの表現活動を中心に総合的な学習により充実させる。	B	・ラーニングマウンテンを複数回実施した教師は80%以上であった。 ・友達と意見を伝え合ったり活動したりすることに肯定的な児童は77%であり、今後も継続して交流活動を授業および他の活動の中に積極的に位置づける。タブレットの使い方が向上してきたと感じている児童は97%であった。	A	・ラーニングマウンテンを複数回実施した教師は80%以上であった。 ・友達と意見を伝え合ったり活動したりすることに肯定的な児童は87%であり、できているといえる。来年度も、交流活動を授業および他の活動の中に積極的に位置づけることを継続してきたい。 ・タブレットの使い方が向上してきたと感じている児童が100%であり十分にできているといえる。	A	・学力状況調査では、学習の成果が発揮されているのが分かった。引き続き、先生方の手厚い指導を継続してほしい。 ・今後の教育界の動向を見て、今年やっているタイピング等のスキル学習を今後も継続してほしい。	学力向上担当 研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が80%以上 ○言葉遣いに関するアンケートにより、授業中や職員室では丁寧語で話せた、丁寧な言葉遣いを身につけた児童80%	・人権集会や道徳科の授業を通して、互いを尊重し合うことのできる児童の育成を図る。 ・全職員共通理解の下、丁寧な言葉遣いを指導し、言葉に対しての意識を高める。 ・縦割り班活動を通して、思いやりの心を育てる。	B	・年6回の人権集会(なかよしタイム)では、体育館での集会や教室での感想交流を継続したことで、みんなと協力することや互いを尊重し合うことなどを少しずつ意識することができてきた。 ・縦割り班活動の振り返りや帰りの会等で友達のいいところを発表する場面を設けることで、互いのよさを認めようという意識が育ってきた。	A	・年6回の人権集会では、体育館での集会や教室での感想交流、縦割り班活動や帰りの会等で友達のいいところを発表する場面を設けることを継続してきたことで、互いのよさを認めようという意識が育ってきた。「一生の友達になる」をめあてに、人の嫌なことはしない、言わないを守ろうと努力しているかというアンケートに、100%の児童が肯定的な回答をしていた。	B	・子どもたちは元氣よく挨拶をしているのはすばらしいし、学校に来ると嬉しい。 ・昼休みにみんなで元氣よく遊んでいる。これからもうあってほしい。 ・時と場合を考えた言葉遣いは、学校や社会教育でも学んでほしい。	人権・同和教育担当 道徳担当	
	●いじめの早期発見・早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的な対応ができていると回答した教員80%以上	・毎月児童に「月のこころ」のアンケートをとる。 ・学級や児童の様子を観察し、随時個人面談を行う。 ・毎月、児童の生活情報交換を行い、いじめの早期発見に努め早期解決につなげる。 ・保護者やSC、SSWとの連携を行い教育相談体制を充実させる。	A	・「月のこころ」のアンケートや、毎月の職員会議での児童情報の共有を行うことで、問題行動やいじめの早期発見、早期対応を行うことができていた。(80～90%) ・年7回のSCやSSWの来校時に保護者にも周知し、適宜面談を行っている。	A	・「月のこころ」のアンケートや、児童情報共有によって、管理職を交えて聞き取りを行うなど早期対応を組織的に行うことができた。 ・SCの来校日をお便りで知らせるだけでなく、個別に連絡を取りながら、SCとの面談を積極的に動めていくことができた。	A	・昔と比べると、児童数も友達関係も違い、いじめの認識が変わってきたことが分かった。「些細なトラブル」で流さず、早期発見・早期対応することができないじめに発展させない手立てで感じた。 ・学校や学級は、人数が少なくとも社会の縮図のようなもの。大人が適宜介入・支援することで、人との望ましい関係の在り方を学んでいってほしい。	生活部・教育相談担当	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・帰りの会や掲示物などでいいところを紹介したり、教師の積極的な声かけにより、友達や教師から認められていると感じる場面を作るとともにその能力を伸ばす。 ・学校行事や縦割り班活動の際に司会や交流の場を積極的に設け、発表の機会を設定し、活躍の場をつくる。 ・「キャリア教育」により、自分がなりたたい、興味のある職業を調べ、将来への展望をもたせる。	B	・帰りの会等でいいところの紹介を子ども同士でしたり、行事や活動では子どもの振り返りに加え教師からの評価をしている。 ・運動会など大きな行事では実行委員会を立ち上げ、活躍の場をつくることできた。また、活動の最後には感想交流の場を設定し多くの児童が発表することができた。	A	・ありがたい集会では、実行委員会を中心に積極的な話し合いを進めることができた。 ・縦割り活動では、上級生がリーダーとなり、下級生は振り返りや感想交流を積極的にに行った。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「将来の夢や目標をもっている」共に80%を達成している。 ・総合的な学習の時間で自分がなりたたい・興味がある職業について調べ、将来への意識が高まった。	A	・キャリア教育の取組は大変良い。人間の原点である「食」をテーマにして味噌づくりに取り組んだことが分かった。キャリア教育を通して将来の展望をもつことができることが望ましい。まずは、子供が夢をもつことが大事だと思う。そのような教育を期待している。	特活部	
	●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「規則正しい生活をしている」と答える児童80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と考える児童80%以上 ○目を大切にし視力の低下を予防している」と考える児童80%以上	・学校で生活指導を行うとともに、生活習慣はなまる運動等で保護者と児童と一緒に生活を見直す機会を設け意識啓発を行う。 ・毎朝の健康調査で朝食の喫食を尋ね、給食時間に教室を回り声掛けを行うことで食に関する意識を高める。 ・タブレット等の電子機器を使用する際、1時間に1度、3分間遠方を見るなどして目を休める時間をつくるようにする。	B	・規則正しい生活習慣については、1学期に親子はなまる運動を実施し、保護者と児童の意識啓発を行った。 ・毎朝の健康調査での朝食の喫食の調査を行うことで、朝食を食べて登校する児童が増えたので、継続していく。 ・タブレット等の使用後に目の休憩を行うように声掛けを続け行っているが、実施はできていないため、3学期に委員会の取組として行う予定である。	B	・規則正しい生活習慣については2学期以降も意識啓発を行う必要があると感じた。 ・食生活についてのアンケートを行ったところ、「食生活が大事である」と答えた児童は100%であったため、これからも継続して言葉かけを行っていく。 ・3学期の集会の際に委員会の取組として「目の大切さ」に関する発表を行ったことにより、視力低下に対する知識は得ることができたと感じられた。また、日ごろから意識して実行していると答えた子は70%だった。	B	・生活習慣に関して、低学年の時の親の言葉かけが、上級生での自立につながっていると感じる。 ・視力もかなり低下していることが分かった。電子機器については、ある程度の制限を大人がかかることで、使い過ぎを抑制し、これからの情報化社会に向けて、適切な使い方をする児童を育ててほしい。	保体部・生活部
○健康に対する意識の向上		○休み時間や昼休み、下校後などに進んで運動をしているかについてのアンケートで、肯定的な回答をしている児童80%以上 ○体に良い食べ物とその効果について3つ以上知っている児童80%以上	・学級レクの時間設定の推進と場の開放を行う。昼休みなどの外遊びを推奨する。 ・給食で出される食材について、月1回のペースで放送や講話をする。	B	・朝の登校後や昼休みに、運動場でサッカーをしたり、雨天時には体育館でボール遊びをしたりする児童が多い。 ・月1回の講話や放送は実施できているが、給食時の養護教諭の声掛けを行うことで、食べ物の効果について興味を持つ児童が増えてきている。	A	・健康への意識づけとして食に関する指導を続けてきた。結果、体に良い食べ物を3つ以上あげ、その効果を答えられた児童が87%おり、指導が有効であったと考える。	A	・学校に顔を出すと、子供たちが大変元氣な姿を見せている。昼休みや業間休みなどにみんなで遊ぶことや運動することは今後も続けてほしい。	保体部	
●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減		●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○業務改善として、削減もしくは統廃合を考え3つ以上実行する割合80%以上	・校時表の見直しをもとに定時退勤日を設定し、時間外在校時間の月平均18時間未満を目指す。 ・会議資料のデジタル化や会議内容の事前告知をすることにより、会議準備及び会議時間を短縮する。業務を見直し、他と重複するものは削除もしくは統廃合することを意識づける。	B	・11月現在で超過勤務が平均14時間と、目標を達成できている。12月には校時変更試行期間を設け、更なる業務改善に臨む。 ・事前の打合せや資料の検討をしたり、会議資料をデジタル化したたりするなど効率化を図り、会議時間を短縮できた。計画していても必要がないと判断すれば削減することを徹底した。	A	・校時表の見直しにより、放課後の個人業務の時間を確保した結果、超過勤務が平均11時間となった。また、限られた時間を有効に使うという意識につながったことは大きな成果であると考ええる。 ・前年路線という考えを改めること、他との重複を整理することにより、時間削減、行事の統廃合をすることができた。	A	・働き方の大切なことは、その効果が児童の姿に反映すること。勤務時間が短くなることは大変良い。さらに、時間内に次の授業の準備をすることができることで、先生たちにも子供に向き合う活力を蓄えてほしい。	教頭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		・		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価			学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関して、職員が「理解している」と回答する割合80%	・月1回の児童の生活情報交換において特別支援学級在籍の児童の様子について情報共有の時間を設け、職員全体で指導にあたる。 ・随時、「支援会議」を開催し、学校での児童の様子や保護者の願いを共有する。 ・特別支援教育に関する校内研究会を開催する。	B	・必要に応じて支援会議を開き、個別に配慮を必要としている児童について情報交換や支援についての話し合いを行った。関係職員の意思疎通を図り支援を継続したことで、落ち着いた生活が実現した。集団に参加してできる時間が増えた児童がいる。 ・特別支援教育についての研修会を開き、特別支援についての啓発を行った。	B	・支援会議を継続して開き、配慮を必要とする児童についての支援について話し合い、検討を繰り返したことで、より良い支援の方法について情報を共有することができた。 ・複数の教員で情報を共有することで、児童に対して校内で統一した支援をすることができた。	B	・個別の事案によく対応されていることが伝わっている。教育の中でも大切なところなので今後も児童のために情報交換をしたり、研修会を開いたりしてほしい。	特別支援コーディネーター	

5 総合評価・ 次年度への展望	・「唐津市学力向上」推進校として前年度の成果と課題を生かした授業実践に取り組むことができた。今後は、児童自身がより主体的に学びに向かうための方策を検討し、家庭とも連携しながら、諸課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。 ・キャリア教育の理解・充実に向けて、教育課程の中でできることを明らかにして実践し、夢を抱く児童を育成するよう努めていきたい。 ・心の教育では、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を柱として、学校が組織的・具体的に対応できたと考え。また、今年度は各活動において実行委員会を立てて児童主体の活動を多く設定するなど、児童の自己肯定感が高まるような機会を多くつくることができた。 ・保護者、地域連携では、家庭学習の充実、「元氣なあいさつ」「しっかりと勉強」「思いやりの心」と基本的な生活習慣の確立に向けて、全校的な取組を今後も積極的に実施していくことが大切である。保護者に対しては、便りなどでよりよい生活習慣の定着のために啓発・啓蒙を図っていく。また、学校に定着した「ひまわり」活動の充実を図り、情報を発信していきたい。 ・健康・体力づくりについては、視力低下を軽減する啓発等をしていく。学校内だけではなく、学校外での社会体育等におけるがんばりについても積極的に紹介していきたい。
--------------------	---